

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府初のエンパワメントスクールとして、これまで箕面東高校が取り組んできた「生徒が主役」の教育を基盤とした実践をさらに発展・拡充し、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校をめざす。

教職員一同が、生徒一人ひとりの教育に全力を注ぐことにより、「よい人材に入ってもらうのではなく、よい人材に育てる」学校をめざす。

【めざす生徒像】(アドミッションポリシーと同様)

チャレンジ精神にあふれる生徒 自分の力を人や社会のために役立てる気持ちの強い生徒 規律を守り、学校生活を充実させたい生徒

2 中期的目標

1 学び直しとしての「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立

(1) エンパワメントスクールの理念である社会人として必要な「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む。

ア 1年次、国数英は30分授業(モジュール授業)を毎日継続することにより、効率的に学力向上を図り、基礎学力の定着を実現する。

イ 国数英では習熟度別の授業を行い、一人ひとりに応じた学習を進め、得意科目の伸長、苦手科目を克服することで学ぶ意欲を喚起させる。

ウ 新学習指導要領への移行に向けて、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、授業改善を推進する。

エ ICT環境の整備を進めるとともに、教科等の指導におけるICT活用の充実を図る。

オ 進学意欲を持つ生徒に対して、進路実現に向け補習・講習等を実施する。

* 授業アンケートにおける全項目平均値3.33の維持をめざす(H29:3.27、H30:3.35、R1:3.33)

2 キャリア教育の充実

(1) 「正解が1つではない課題」に対して3年間取り組むことで現代社会に通用し、貢献できる人材を育成する。

ア 「産業社会と人間」「総合的学習の時間」「エンパワメントタイム選択科目」などの『エンパワメントタイム』の授業を通じて、情報編集力・コミュニケーション力・社会人基礎力を身につける。

イ 防災教育・障がい理解教育・国際理解教育について、教科横断的な取組を進める。

(2) 「キャリアパスポート」を活用し、3年間を通じた計画的なキャリア教育プログラムを策定し、卒業時の進路未決定率を下げる。

(3) 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、世の中に関する理解を広げ、進路選択力を育成する。

(4) 箕面東版デュアルシステムの取組を充実させる。

(5) 各種の検定試験の取組を強化し、生徒が学力と自信をつけるとともに、進路実現につなげる。

* 生徒向け学校教育自己診断の「進路のためのキャリアガイダンスは役に立ちましたか」に対する肯定率80%をめざす(H29:77.5%、H30:81.8%、R1:76.3%)

* 卒業時の進路未決定率(大学浪人を除く)10%以下の維持をめざす(H29:11.4%、H30:19.5%、R1:8.6%)

3 生徒指導と相談体制の充実

(1) 厳しく温かみのある生徒指導の充実

ア すべての教育活動を通じて、規範意識の育成と果たすべき役割を自覚するための指導を実践する。

イ 学校行事や部活動を充実させ、学校への帰属意識や連帯感を育成する。

ウ 教員間でのコミュニケーションを密に行い、生徒情報を共有し、チームとして中退防止に努める。

エ 人権教育の取組を通じて、他者を大切にす姿勢を培うとともに、豊かな人間関係を形成する力を身に付ける。

オ いじめ対策委員会を中心に、いじめに対する対応を迅速かつ適切に行う。

* 生徒向け学校教育自己診断の「ルールを守っている」の肯定率90%以上の維持をめざす(H29:84.9%、H30:90.5%、R1:90.8%)

(2) 不登校生、課題のある生徒、再チャレンジなど多様な生徒への学校定着と自己実現を図る環境を整える。

ア 各学年団ごとに支援教育コーディネータを配置し、個別の支援計画・指導計画作成し、進路実現を含む適切な支援を図る。

イ 「めいぶるカフェ」を開設し、NPO法人と連携し、生徒の居場所活動に取り組むことにより、不登校生徒の防止を図る。

ウ 生徒支援委員会を中心に、SSWを活用しながら支援学校や子ども家庭センターなどの外部連携を強化する。また、教育相談や支援に関する研修会・事例研究会を開催し教員のスキルの向上を図る。

* 生徒向け学校教育自己診断の「自分の居場所がある」に対する肯定率85%をめざす(H29:83.9%、H30:84.9%、R1:80.4%)

4 エンパワメントスクールとしての広報活動の充実

(1) 中学校・中学生への情報発信と広報活動の充実を図る。

ア 学校紹介の映像を制作し、学校ホームページの充実をはかる

イ 中高連絡会、中学校訪問、オープンスクール、公開授業を積極的に実施し、本校の理解と信頼を獲得する。

ウ 中学校との連携を図り、中学校生に「行ってみたい箕面東」と言われるようにする。

(2) 地域の教育資源を活用しつつ、本校の教育システムの理解を深めるための情報発信を展開する。

ア 外部会場での宣伝活動については、効果的・効率的に行えるよう、在り方を検討する。

イ 授業や部活動等で、地域住民との連携を充実・発展させる。

* オープンスクール参加者の維持をめざす(H29:656人、H30年:653人、R1年:568人)

5 教職員の働き方改革を進める

(1) ノークラブデー・全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。

(2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。

* ストレスチェックでの総合(健康リスク)の評価100をめざす(H29:100、H30:104、R1:111)

